

秋季大祭祭文

それ日ごと夜ごとに秋は深まり、ここ東方山安養寺境内の紅葉は

もみじ

秋の日ざしを受けて、美しい金系銀系の錦模様を織り出し東方瑠

こうよう

そ

ここ

うやうや

璃の満山が紅葉に染まる。斬に恭しく安養寺観音堂本尊観世音

こうりんようごう

あお

つつ

きようしゆ

りようぶかいえ

菩薩の降臨影向を仰ぎ、謹しんで真言教主大日如来 両部界会

しやうじゆ

こと

わ

しやうじや

たしやう

しだいはちだい

諸尊聖衆、殊に別いては聖者大日大聖不動明王・四大八大諸天

ふんぬ

ふげんしきしんじんべん

れいしやうじやうりげん

じんくう

忿怒普賢色身神変大菩薩 靈異相承理源大師、総じては盡空法

きやうがい

もう

もう

界一切三宝の境界に白して言さく。

ここ

本日、安養寺秋季大祭を執り行うに当たり、茲に当山は今を去

ゆうよさい

ろうべん

ること千三百有余歳。奈良時代 聖武天皇の発願により、良弁僧

正の開創以来の浄刹 古刹にして、更に真言密教立教開宗の弘法

どうらう

なんげしゆじやう

大師が承和元年堂宇を再建し、大師を中興の祖と迎いで難化衆生

救済の大師信仰光陽の道場 靈地なり。

こうよう

しほらう

時に靈驗極めてあらたかな本尊薬師如来は、国の重要文化財に

指定を受け、滋賀県下の至宝なり。古刹の習いで納める本堂薬師

しほらう

堂の痛みいちじるしく、このたび国 県 市の特別の勝計に浴し、十

しやうけい

よく

方の檀信徒の協賛を得て、「平成の大修理」に着工。あたかも弘法

大師高野山開創千二百年の佳節なり熊谷俊亮住職の大師を讃え、

かせつ

たた

大師高野山開創千二百年の佳節なり熊谷俊亮住職の大師を讃え、

ひたすら四国八十八ヶ所靈場巡拜の難行苦業を知る者は、その徳ふんこつさいしん

のいたすところと感服。そして同任職を支え安養寺復興に粉骨碎身し、家族を想いお寺を思い檀信徒を想うの一念により、六十九歳で五年前密嚴浄土みみやう じやうしんに還えりたる直子寺族夫人、法名寂光院覚苑

慈祥大姉の微妙の浄心の賜ものと尊ばれ、その恩徳を戴かれている。

とし歳を明ければ一月二十一日七廻忌の宿忌法要が準備されている。

かくして本日の秋季大祭においても、直子寺族夫人より始まったご詠歌の詠唱が続けられ、大師流慈苑講の精進努力はとくに賞賛されるものなり。

一方、かくしても本日の秋季大祭においても恒例の当山流柴燈大護摩供が大修理中の本堂前の柴燈護摩壇上において奉修。以おもんみ

れば柴燈の密法たるや、事理一體の妙法、転禍為福の捷徑しょうけいなり。

故に之これを信じる者は難苦得楽の利益こうむを蒙る。

無病息災にして、千歳萬秋せんさいばんしゅう やわいの齡を保ち福壽圓滿ぶくじゆえんまん しゆんかしゅうげつ、春花秋月の

樂ら きわを極む。誠に是れ除災受樂の深法じんぼう、諸願成就の大法たいぼうなり。豈あにに

之これを信ぜざらんや。

今や安養寺は当山流講社の懇請により、當道場に柴燈の密壇を構え、大護摩の秘法ごんしゅうを嚴修して所願の成就を祈る。

仰ぎ願わくば本尊聖者を始め奉り、たてまつ西部界会 諸尊聖衆 どうぞ曩租

神変大菩薩・中興理源大師等、末資が無二の丹誠を照覽して梵ぼん
燒ぎょうの法味を納受し、益々の威光を増長して撰化衆生の勝益を施ほどこ
し給え。

伏ふして乞こう。

一天四海いってんしかい 風雨順時ふううじゆんじ 五穀豊饒ごこくふによう 萬民快樂ばんみんけらく

殊ことには本日ご参詣の面々

家内安全 息災延命 子孫長久
福壽圓滿 乃至法界 平等利益

平成二十八年十一月十三日

京都府向日市寺戸町

亀光庵住職 土口哲光敬白